

2008年1月4日
代表取締役社長執行役員
野村 親信

年頭挨拶

皆さん、新年明けましておめでとうございます。こうしてグループの全役員、従業員の皆さんと共に新しい年を迎えることが出来たことを大変嬉しく思います。

新しい年に当たり一言ご挨拶申し上げます。

昨年1年間を振り返ってみますと、世界経済は、年の後半こそ米国のサブプライム問題の影響で若干の減速傾向が見られましたが、総じて堅調に推移したと言えると思います。特に、中国を始めとするBRICs各国の経済の伸びは著しく、世界経済発展の牽引役を果たしました。

この様な経済環境の中、鉄鋼原料、金属資源、石油等の原材料の価格が高騰する一方、不定期船市況は活発な荷動きに支えられ夏場以降暴騰し11月には史上最高値をつけました。また、長期間に亘り低迷していたタンカー市況も冬場に入り急回復いたしました。

我が社は、この様な市況環境の中活発な営業活動を行った結果、中間決算で連結売上高819億円、経常利益136億円と好業績を上げることができました。また、現在発表しております通期予想は、連結売上高1,570億円、経常利益246億円ですが、下期の業績も大変好調に推移しており史上最高益を計上できる見込みであります。これも偏にグループの全役員、従業員が力を合わせて頑張ってきた結果でありまして、この機会に皆さんの日頃の努力に対し心より感謝したいと思います。

しかしながら、今私達に求められているのは好業績に浮かれることなく冷静な状況分析と次の時代への準備であります。企業には必ず浮き沈みがありますが、停滞したり失敗している会社は例外なく現状に満足し次への準備を怠った会社であります。

その意味から、私達は今一度“DAIICHI VISION 2010”の永続的発展・成長のための3つの課題を改めて思い起こす必要があります。3つの課題とは、営業規模の拡大、長期安定利益体質の充実、財務体質の強化であります。これらの目標実現のため、各人に与えられた業務をそれぞれがもう一度見つめ直し、工夫をこらし改善する様に努力することをお願いします。

次は、安全運航の問題です。安全運航は言うまでもなく海運会社の基本的命題ですが、特に昨今は、地球環境保全の面からもその徹底が社会的責務となっています。

一昨年の鹿島の事故以来、関係者間にて事故防止の様々な対策を検討・実施してもらっていますが、昨年も傭船での座礁事故や大事故に繋がりにかぬない機関、機器類のトラブル等が散見されました。運航事故は荷主殿始め関係各方面に多大な迷惑をかけるのみならず、当社の信用の失墜にも繋がりにかぬません。今一度運航事故防止の徹底に向けて、関係会社、関連各グループ連携の上、運航船への的確な指導をお願いします。

最近とみに思う事は、企業活動は団体競技の最たるものではないかと言うことでもあります。個人の能力・努力も勿論大事ですが、社員全員の力が結集して始めて会社としての発展・成長に繋がっていくものだと思います。今年1年が我が社にとり新しい時代を切り開く素晴らしい年になるよう全員で力を合わせ頑張っていこうではありませんか。

最後になりましたが、グループ員全員とご家族の皆様のご多幸と、本船の安全航海を祈念して、私の年頭の挨拶といたします。

以 上